

儲かる農業実現めざす

加須市 角田大輔さん

若手農業者のリーダー役も

【埼玉】「農業は儲からない」といわれ育った角田大輔さん(38)は加須市の米農家だ。そのため、農業をすぐには継がなかった。腰を痛めて入院中に、すでに農業を継いでいた同級生から「農業を継ぐなら中途半端にならないよう専業でやったほうが



①角田さん、②ヤング農マン

一緒に働く非農家出身の農業法人の研修生となった。良い」とアドバイスを受けた。いきなりの独立に不安があったため、地元

の従業員や研修生が楽しそうに作業するのを見て、「農業って魅力があるかも」と農業のイメージが変わった。6年間ノウハウを学び、2021年4月に独立。今では10年まで規模を拡大した。交通安全パレードでは、小学生が喜ぶコスプレでトラクターに乗車した。次の世代の農業へのイメージを変えるため、少しでも関心を引くよう意識している。

角田さんには「ヤング農マンKAZO」の会長というもう一つの顔がある。同市の若手農業者の集まりで、現在は20〜30代の20人が在籍している。後継者だけでなく新規就農者や法人従業員もおり、品目も米や野菜、果樹、畜産、花卉などさ

まさまざま。月1回は必ず集まり、「儲かる農業」の実現のため切磋琢磨している。